

多喜二の出身県 秋田 各地で「母」上映へ

秋田県大館市出身で、「蟹工船」などの作品で有名なプロレタリア作家の小林多喜二。治安維持法下、29歳の若さで特高警察の拷問により虐殺されました。その母親、セキの10代から80代の生涯を描く映画「母 小林多喜二の母の物語」(山田火砂子監督)が1月に完成し、全国で上映運動が展開されています。

秋田県内では各地で上映実行委員会がつくられ運動が進み5月から上映が始まります。秋田市では5月5、6、7日に同市文化会館で上映されます。

多喜二の出生地・大館市では、福原淳嗣(じゅんじ)大館市長が特別出演していることもあり、同市役所幹

部や映画サークル、大館市連合婦人会などが実行委員会に参加。地元の映画館「御成座」で5月6日から7月2日までロングラン上映され、セキの出生地・大館市釈迦内地域を中心に「偉大な作家を生んだ母親の物語。どんな映画になっているのかな」など、期待と関心が高まっています。

各地の実行委員会では、安倍政権が「共謀罪」を盛り押ししようとしていることに危機感を強め「ふたたびこの映画のような母親を生み出してはいけない。世論を広めるためにも映画を見る人を増やそう」と奮闘しています。

問い合わせ 秋田県映画センター 018(8888)29978